

教科	商業	科目名	経済活動と法	組	7組	2単位	必修・ <input type="checkbox"/> 選択
教科書	経済活動と法(実教出版)			補助教材	問題集, プリント		



科目「経済活動と法」のねらい

○ビジネスに必要な法規に関する基礎的な知識を習得させ、経済社会における法の意義や役割について理解させるとともに、経済事象を法律的に考え、適切に判断して行動する能力と態度を育てる。



授業の進め方（学習方法）

- 教科書を中心に基礎的な知識・技術を学習するので、教科書を十分利用しましょう。
- ノートは板書事項だけでなく、授業中の話題なども簡単にメモするとよく、特に授業中に詳しく説明した箇所はノートの取り方を工夫してください。
- 配布されたプリントなどは活用できるよう整理して、ストックしておくこと（学習ノート、ワークブックなどに貼付したりファイルを使用する）が大切です。
- 身近な事例でビジネスに必要な法規を考えましょう。現在の日本や世界で起こっている経済やビジネス上のトラブル事例について関心を持つことが大切です。



評価の観点と方法

評価の観点	内 容	評 価 方 法
関心・意欲・ 態度	・経済生活やわれわれの市民生活が安定的に営まれることは、法の存在による「法化社会」であるからである。従って、法の知識、法的思考が生活上必須のことであることに関心を持ち意欲的に学習使用とするか。	・学習活動の取り組み ・問題集・プリント等の提出 ・自己評価
思考・判断	・ある事象の解釈について、また条文についての生成過程や立法の趣旨を論理的に思考し、どう判断しとらえることができているか。	・教科書や問題集等の記帳の状況
技能・表現	・新聞記事などを通してそれらのことが「法化社会」でどのように扱われ、条文と関連できるか具体的にとらえることができるか。	・教科書や問題集等の記帳の状況 ・小テスト
知識・理解	・経済活動や市民生活のあるところ法あり、実感し、理解することが知識の裏づけをもってなされるか。	・小テスト ・定期考査 ・検定試験

教科	商業	科目名	経済活動と法	組	7組	2単位		必修・選択	
教科書	経済活動と法(実教出版)			補助教材	問題集, プリント				
期	月	単元名・学習内容		学習のねらい			学習活動と評価		
前 期	4	第1章 経済社会と法 1. 変化発展する経済社会と法		<ul style="list-style-type: none"> ○経済活動の円滑な流れは法によって行われていることを理解させる。 ○法とはどんなものか、その本質を明らかにし、法の体系を理解させる。 ○法の分類、効力、適用と解釈など法を学ぶための基本的な事柄を理解させる。 ○法律関係は即利権・義務の関係である。その権利・義務の意義、関係そして主体について学習し理解させる。 ○自然人や法人の権利について理解させる。 ○物件の対象としての物の概念と範囲を理解させる。 ○財産権や知的財産権に触れる。 ○生活を支える財産権について理解をすすめる、その変動を理解させる。 ○財産権の変動、権利の発生・変更・消滅について理解を深める。 ○債権・債務の発生原因とその理解。 ○売買契約の法的性質やその意味。 ○所有権の移動の時期や第三者への対抗要件などを理解させる。 ○不動産や動産の所有権移転。 ○債権の譲渡やその方法。 ○貸借について理解させる。 ○不法行為による損害の賠償。 			<ul style="list-style-type: none"> ・学習への取り組み ・問題集等の提出 ・小単元ごとに小テスト ・中間考査 ・期末考査 		
	5	第2章 権利・義務と財産権 1. 権利・主義とその主体 2. 物と財産権 3. 知的財産権							
	6	第3章 財産権と契約そしてその保護 1. 財産権と契約 2. 物の売買 3. 物の貸借 4. 契約によらない財産権の変動							
	7	5. 財産権の保護							
	9								
	10	第4章 企業活動に関する法 1. 企業活動の主体 2. 営業活動の自由と制限							
	11	3. 株式会社と法							
	12	第5章 取引に関する法 1. 手形・小切手と法 2. 金融取引							
	1	第6章 企業の責任と法 1. 法令厳守 2. 消費者と法 (かしこい消費者であるために) 3. 労働と法 4. 紛争の予防と解決							
2									
後 期							<ul style="list-style-type: none"> ・学習への取り組み ・問題集等の提出 ・小単元ごとに小テスト ・中間考査 ・期末考査 		